

神奈川県 of 令和6年台風第10号に伴う 大雨の対応と防災に関する取組

神奈川県県土整備局河川下水道部河港課河川防災グループ 樋口 悟志

1. はじめに

令和6年8月末に襲来した台風第10号は、本県の県西部及び沿岸地域を中心に記録的な豪雨をもたらし、河川の氾濫や護岸崩落など多くの被害を発生させました。

私は、河港課の防災担当として台風第10号に伴う災害復旧業務に携わりましたので、その対応について報告するとともに、本県の防災に関する取組について紹介します。

<神奈川県の河川>

県内には中央部を南北に流れる相模川と県西部を流れる酒匂川の2つの大河川があり、飲料水などの水源として県民の暮らしを支えています。

また、相模川を境として、東側には都市化が進んでいる地域を流れる河川、西側には箱根や丹沢などの山岳地帯を水源とした自然豊かな河川が多くあり、一級河川は3水系39河川、二級河川は23水系81河川、総延長は約860kmとなります（図－1）。

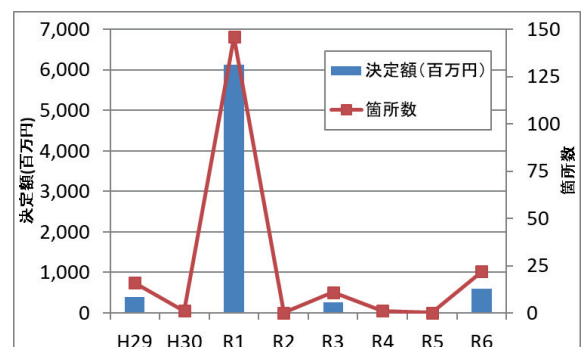


図－1 神奈川県の概要

2. 近年の災害査定の申請件数

本県における近年の災害査定の申請箇所数は、平成29年は16箇所、平成30年は1箇所、令和元年は台風第19号に伴う大雨等により146箇所、令和3年は11箇所、令和4年は1箇所となっています。

このように、令和元年を除いては、近年、申請が少ない状況でしたが、令和6年は台風第10号に伴う大雨により22箇所と比較的多くの申請となりました（図－2）。

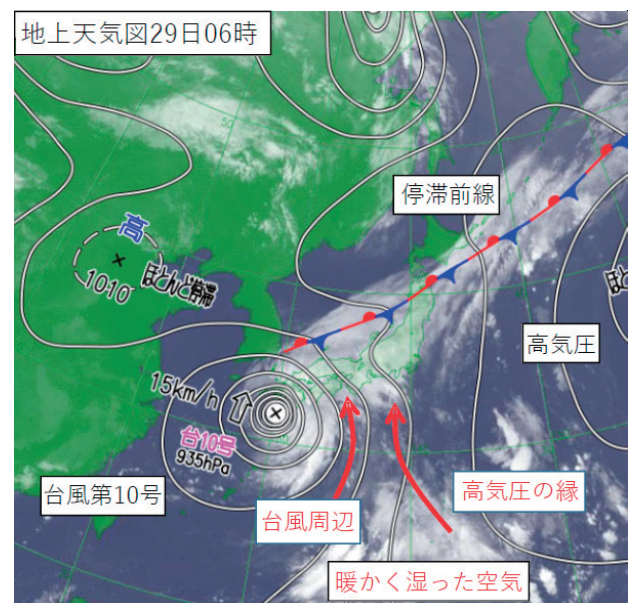


図－2 神奈川県の近年の災害査定状況（市町村含む）

3. 台風第10号に伴う大雨の対応

<気象概況>

本県では、8月29日から9月2日にかけて、台風第10号の周辺と太平洋高気圧の縁をまわって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、大雨が降りました（図－3）。



図－3 台風第10号 天気図（提供 横浜地方気象台）

台風本体は、本県から遠く離れていたにもかかわらず、72時間降水量が小田原市では529.5mm、海老名市では444.5mm、平塚市では427.5mm、相模原市中央では420.5mmと複数の地点で、観測史上1位の値を更新しました。

<県内の被災状況等>

県内の被害状況は、消防庁への最終報告ベースで、負傷者5名、全壊3棟、半壊42棟、床上浸水111棟、床下浸水1,886棟となりました。

施設被害については、東名高速道路と並行する国道246号の土砂災害をはじめ、県西部及び沿岸地域を中心にがけ崩れなどが多数発生しました（写真－1）。

河川では、二宮町の葛川や平塚市の河内川など6河川で溢水したほか、秦野市の金目川など11河川17箇所で護岸崩落などが発生する被害を受けました。

また、葛川が溢水した二宮町では、県内2例目となる警戒レベル5の「緊急安全確保」が発令されましたが、幸いにも人的被害はありませんでした。



写真－1 国道246号の被災（提供 横浜国道事務所）

<災害復旧技術専門家との相談会について>

本県では、特に市町村の職員は災害査定の実験者が少ないことから、支援・助言を目的として、本県のOBによる災害復旧技術専門家との相談会を開催しています。

今回の相談会は9月12日に開催し、河川のほか、道路や公園など計41箇所について、災害復旧技術専門家の知見に基づき、災害復旧事業の適用範囲、復旧方法の考え方など、災害査定に向けた支援や助言をいただきました（写真－2）。

このような相談会を踏まえて、今回は22箇所を申請し、11月12日から4日間にわたり災害査定が行われました。



写真－2 相談会の状況

<河川管理施設の申請概要について>

本県の管理する河川では、10箇所を申請しており、その中の2箇所について紹介します。

まず、秦野市内を流れる二級河川金目川において護岸崩落が発生した箇所です。

この箇所では、幹線道路のバス通りに面した護岸が崩落しましたが、近隣に迂回路がないなど、通行禁止等の措置が困難でした。

そのため、道路管理者と調整し、道路の変状に注意しながら、応急仮復旧を進め、10日後に完了しました。

災害査定では、応急仮復旧のほか、本復旧として、延長38.9m、間知ブロック張230㎡などを申請しました（写真－3）。



写真－3 金目川被災箇所

次に、厚木市内を流れる一級河川荻野川において護岸崩落が発生した箇所です。

この箇所では、周辺住民が多く利用する生活道路に面した護岸が崩落したため、関係者と調整し、即時に通行禁止措置を行い、応急仮復旧を5日で完了させ、交通開放しました。

早期の応急対応により、県民から、現場の水彩スケッチ画を添えた励ましの手紙をいただき、対応について評価いただいたものと考えています。

災害査定では、延長96.9m、平ブロック張944㎡などを申請しました(写真－4)。



写真－4 荻野川被災箇所

紹介した事例を含めた災害査定全体の結果としては、市町を含めて決定額が約5億9千万円となりました(表－1)。

この査定結果を踏まえ、現在、被災箇所の早期復旧を目指し、工事を進めています。

表－1 災害査定結果(査定決定ベース)

道 路 ・ 河 川 名 等			決 定 額
県	河川	一級河川 荻野川 ほか9箇所	約3億9千万円
	水道	小田原市道5094号線	約4百万円
市 町	河川	準用河川 唐沢川(小田原市)	約3千7百万円
	道路	小田原市道5094号線 ほか8箇所 (小田原市・秦野市・伊勢原市)	約1億5千万円
	公園	湯河原町総合運動公園(湯河原町)	約9百万円
総 計			約5億9千万円

4. 神奈川県防災に関する取組

本県では、防災に関する取組として情報提供や広報も精力的に取り組んでいますので、紹介します。

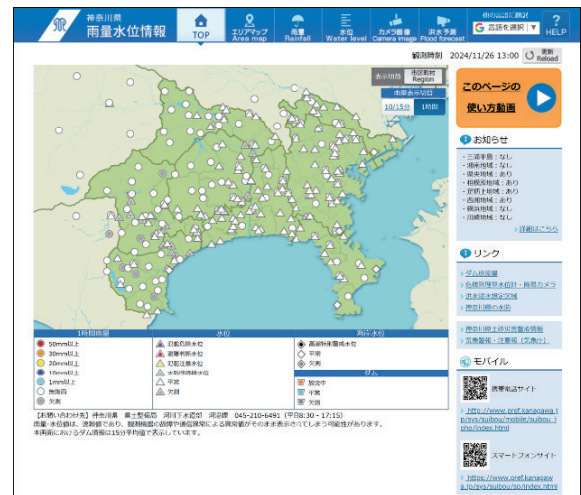
<神奈川県雨量水位情報>

水防管理団体の水防活動や、住民の警戒避難等に資するために、本県では、108河川で浸水想定区域図を作成し、88河川を水位周知河川に指定しています。

この水位周知河川などでは、雨量や水位データとともに、河川増水時の切迫感を住民にわかりやすく

提供することを目的として、河川監視カメラによるリアルタイムの画像を、県ホームページ「神奈川県雨量水位情報」で公開しています。

この「神奈川県雨量水位情報」は、降雨の多い出水期には、県民からの問い合わせが多くなることから、スマートフォンサイトの二次元コードの表示や、使い方の動画を追加するなど、より利用しやすくなるよう努めています(図－4)。



図－4 神奈川県雨量水位情報

https://www.pref.kanagawa.jp/sys/suibou/web_general/suibou_joho/index.html

<河川の取組に関する広報>

本県では、「逃げ遅れゼロ」を目指し、多くの皆様に、河川やダムの情報を正しく理解していただき、防災行動に活用していただけるよう、チラシを作成しています。

このチラシを市町村や自治会と連携して、沿川住民に直接配布するほか、県と包括協定を結んでいるコンビニ、スーパーなど約1,000店舗で配架するとともに保険会社により配布していただくなど、積極的な広報に努めています。

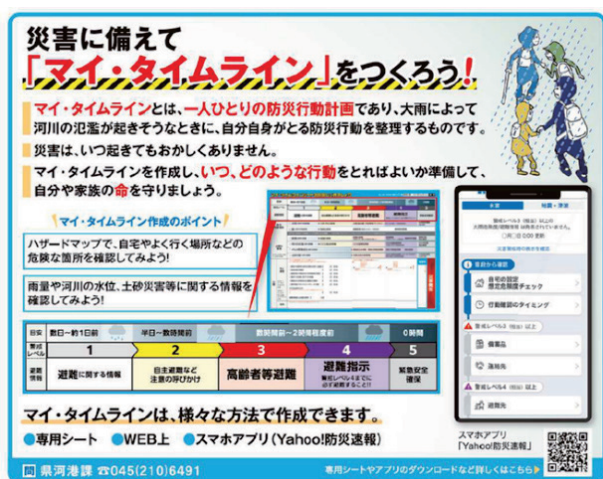
とりわけ、住民一人ひとりのタイムラインとなるマイ・タイムラインの普及啓発については、精力的に取組を進めており、小学生向けチラシの配布やスマートフォンアプリによる作成の広報なども行っています。

小学生向けチラシでは、平易な言葉を使うなど、よりわかりやすい内容とし、今年度は電子データを含めて県内の小学校等約570校の全児童を対象に約28万部分を配布しています(図－5)。



図－５ 河川の防災情報等に関するチラシ

また、6 月にはマイ・タイムラインの作成を促進するため、スマートフォンのアプリ上でマイ・タイムラインを作成できる Yahoo! 防災速報を、県の広報誌「県のたより」で紹介しました（図－6）。

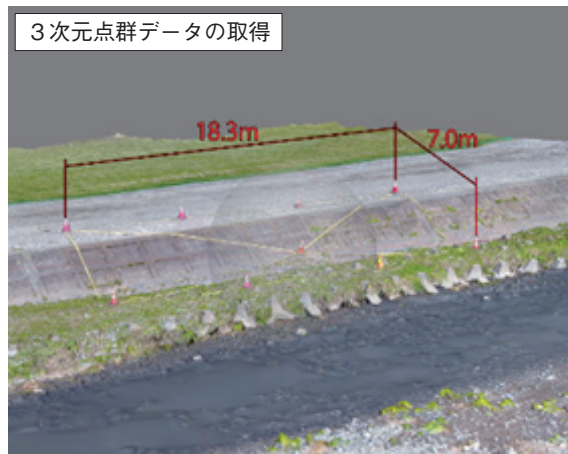
図－6 Yahoo! 防災速報の紹介
(出典 県のたより 6 月号)

＜令和 6 年度水防演習＞

本県では、水害から県民の生命や財産を守るため、水防団や防災機関等の水防活動に従事する者の技術の向上や、地域住民の水防に対する理解を深めること等を目的に、水防月間である 5 月に関係市町との共催により、隔年で水防演習を実施しています。

令和 6 年度は、小田原市、箱根町、真鶴町及び湯河原町との共催で「洪水から守ろうみんなの地域」をテーマとして、5 月 26 日(日)に小田原市内の酒匂川右岸河川敷で全 20 機関約 620 名が参加する演習を実施しました。

演習では、木流し工などの伝統工法の継承を図るとともに、水マット工やドローンによる 3 次元点群データの取得など、新たな訓練を取り入れました(写真－5)。



写真－5 令和 6 年度の水防演習の様子

5. おわりに

災害発生時には迅速に対応できるような日ごろの訓練や、災害査定を円滑に進めるための仕組みづくりなど、万全の準備をしておくことが重要であることを改めて認識しました。

最後になりましたが、災害査定において、ご指導・ご支援いただきました災害復旧技術専門家とともに、国土交通省及び財務省の方々に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。